

平成 29 年 9 月 15 日 (金曜日)

強靱な国土へ予算増額

足立参院議員が講演



講演する足立議員

足立敏之参院議員は13日、埼玉県本庄市で講演した。先進国に比べて日本のインフラ整備が遅れ、水害や土砂災害が頻発するなど災害リスクも高まる中、強靱な国土づくりのためには公共事業予算を増額し、着実に整備する必要があると説いた。公共事業が民需を生み、日本経済をけん引するとも強調。建設産業の再生に向け、公共事業の量と質の確保に取り組みとした。

地元の建設業や商工関係者らで組織する、地域の将来を語る実行委員会（代表・竹並紀松埼玉県建設業協会見玉支部長）に招かれ、聴講者約300人の前

量・質確保で建設産業再生



吉田本庄市長（左）と対談した

で講演した。

足立議員は、日本の国土面積の6割にとどまる英国の高速道路整備延長が日本の1・2倍に上ることなどを例に挙げ、「日本のインフラは2流、3流だと認識しなければならぬ」と指摘した。防災・減災では「国土が脆弱」と主張し、1998年度をピークに減少傾向にある公共事業予算を増額する必要があると訴えた。

経済の面からも公共事業の有

効性を説き、一般政府公的固定資産形成費とGDPの伸び率に関するデータを紹介して「関係があり、公共投資をした国のGDPは伸びる」と話した。

インフラ整備や災害対応を担う建設産業は「絶対になくしてはならない」と強調。公共事業の量と質を両方確保することが建設産業の再生につながることを、公共事業予算の計画的な確保と品確法（公共工物品質確保促進法）に基づく施策の着実な実施が重要とした。

講演に続いて、吉田信解本庄市長と対談した。足立議員は地方自治体の単独事業費が大幅に減っていると指摘し、「少しくこ入れをして戻さないといけない」と、総務省OBの国会議員と話をしている」と述べた。「しっかりと仕事をすれば利益が出る環境を取り戻していくことが、建設業の誇り、威信の回復につながる」と語り、量と質の確保に全力を挙げる考えを示した。